

# なみまるくん

うみ・なかま  
コミュニケーション

Hokkaido Gyoren Magazine Number 291 January 2013

# 1



海ひと夢スペシャル  
新春会長インタビュー

北海道ぎょれんウェブサイト  
[www.gyoren.or.jp](http://www.gyoren.or.jp)

# 豊かな浜の実現を 目指して



櫻庭会長

明けましておめでとうございます。  
新年にあたり、櫻庭会長に  
昨年を振り返り、新年に向けた  
お話を伺いました。

目  
CONTENTS  
次

- 1 海・ひと・夢スペシャル  
新春会長インタビュー
- 4 ぎよれん常勤役員新春メッセージ
- 6 昆布漁業に生きる・特別編  
北海道昆布漁業に関する懇談会〔後編〕
- 10 チリ政府へ養殖銀鮭の輸出抑制を要望
- 11 浜の家族物語  
枝幸漁協 木浪 新悦さん ご家族
- 12 頭すっきり!! ブレイクタイム
- 13 福島第一原発事故による風評被害の損害賠償請求に  
対する東京電力の説明会を開催
- 14 なみまるインフォメーション
- 15 浜のほっとニュース
- 16 クローズアップ宣伝事業
- 17 浜だより

本格的な冬の訪れを前に穏やかな秋の目梨泊港



表紙の写真は、枝幸漁協の木浪 新悦さんご家族です。

**高水温などの影響を受け厳しい生産環境となりました**

昨年は、沿岸水域の高水温などで、海の中の環境にも変化をきたしました。秋鮭・いか・さんま等が前年を下回る水揚量となったほか帆立をはじめ総じて浜値が前年割れとなるなど、厳しい生産環境となりました。

特に、秋鮭は過去二十年間で最低水準の水揚げとなったほか、昆布も生産が上向いたものの依然として減産基調から抜け出ていません。また、ほっけ資源の減少も顕著となっており、全道的に関係機関を挙げた資源回復対策が喫緊の課題となりました。

**長引く景気低迷や厳しい輸出入環境下、国際化に対応したグローバル戦略を強化していきます**

流通面では、長引く景気低迷やデフレの中で一般的に水産物消費が低迷し、川下段階における低価格志向が一段と進みました。

一方、近年、浜値回復を牽引してき

税撤廃を前提にする限り、交渉参加に反対」と掲げ、参加するかしないかの最終判断は先送りしています。しかし、貿易自由化へと突き進むことになれば、輸入水産物の攻勢により国内の魚価はさらに低迷し、水産基地北海道に与える影響は計り知れません。北海道が元気になるには、第一次産業の元気が必要です。日本の食料を支える第一次産業の重要性をかえりみないTPP参加は、断固回避すべきです。よって、本年も引き続き、全漁連や農協団体等との広範な連携によりTPP反対の姿勢を貫いていくべきだと考えています。

**原発事故の早期収束と本道水産物の国内外での風評被害が払しょくされることを願います**

一昨年の東日本大震災による本道の漁業被害は、国・道の支援措置によりいち早く復旧・復興の目処が得られ被災地に明るさが戻りました。しかし、福島第一原発事故に伴う放射性物質汚染水の海中放出による、本道水産物への風評被害の影響が深刻です。昨年9

た輸出環境が一変し、欧州経済の減退や中国国内の金融引き締め等も相まって、秋鮭の中国向け輸出に急ブレーキがかかるなど、国内外で厳しい流通を余儀なくされました。

なかでもチリ産銀鮭の大量搬入で我が国の鮭市場が混乱し、道東春鮭の浜値低落を招いたほか、秋鮭製品や一般魚種の消流にまでこの影響が及びました。

こうした状況下、昨年7月に販売対策による春鮭の価値向上と消費拡大を図るため北海道春鮭普及協議会を設立、11月には日本とチリのEPA（経済連携協定）に基づく魚部会場で輸出抑制を訴えました。今年も、国際化に対応したグローバル戦略を強化するとともに、関係団体等との連携による国内外における各種流通対策に組織を挙げて取り組んでいきます。

**北海道漁業協同組合長会議が設立50周年の大きな節目を迎えました**

昨年、北海道漁業協同組合の運動基本方

月、東京電力に対してすけそうだらと小女子について損害賠償を請求しました。また、12月には東京電力が来道し説明会が開催され、全道の漁業者代表の皆さんに率直な意見を出していただきました。東京電力との交渉継続はもちろん、原発事故が早期に収束し、本道水産物の国内外での風評被害が払しょくされることを願っています。

**「強い北海道漁業の確立」を旗印に本道漁業協同組合が「一丸となって邁進していきます」**

私は日頃より「豊かな浜」の実現を思い描いています。そのためには漁業者、加工業者、流通業者など、水産に関わる皆さんが良くなければなりません。明るく活気があり、浜全体が幸せになればと願っています。

平成25年も、世界経済の動向を含め内外環境は依然として先行き不透明感が漂い、本道漁業においても生産から加工・流通に至る分野で数々の課題があります。今年も「強い北海道漁業の確立」を旗印に、地域経済を支え持続

針を決定する北海道漁業協同組合長会議が、設立50周年という大きな節目の年を迎えました。半世紀の長きにわたって築き上げられてきた協同運動の成果に今日の本道漁業が支えられていることを再認識し、さらなる飛躍を目指すために決意を新たにしたいところで。昨年開催された50周年記念式典では、「第50回北海道漁業協同組合長会議宣言」が採択されました。また、特別決議として、「強い北海道漁業の確立」を目指すというスローガンを掲げ、漁業経営安定対策や原発事故災害対策など山積する諸課題解決に組織を挙げて取り組んでいます。

**TPP参加による貿易完全自由化を阻止するため反対の姿勢を貫きます**

昨年末の衆議院議員総選挙において、民主党から自民党へと政権が交代しました。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉参加の是非をめぐる議論は、新政権の下で仕切り直しとなります。自民党は選挙公約で「聖域なき関

可能な漁業の推進と国民の皆様への水産物の安定供給に向け、邁進していく決意です。浜の皆さんと漁業協同組合が一丸となって、豊かな浜を目指して共に頑張りましょう。



第50回北海道漁業協同組合長会議で主催者を代表して挨拶する櫻庭会長

# 新春メッセージ

新年にあたり、ぎょれん常勤役員の皆さんからのメッセージをご紹介します。



常務 重岡 徳次

### 平成24年はどんな年でしたか

新年明けましておめでとうございます。

中国大連において3月「安全・安心 北海道水産物消費拡大懇談会」を開催し、放射能汚染への不安を払拭すべく、グローバル化する道産水産物の普及を推進したものの、尖閣諸島の領土問題が表面化し、対輸出国による更なる輸出規制が強化され、流通の停滞に拍車がかかりました。又、秋鮭・助宗・イカ・ホッケ等道内主要魚種の水揚げが不振となり、業界挙げて資源の維持・管理に取り組むべきことが喫緊の課題であることを痛感した一年でした。

### 新年にあたっての抱負

今年は巳年。（竜頭蛇尾にあらず有終完美でありたい！）蛇の道は蛇の諺通り、我々ぎょれんマンは業界のリーダー・その道の専門家であるべきとの意識を向上し、この厳しい局面を役員一丸となり浜の負託にこたえて参りますので、ご指導ご協力の程お願い申し上げます。



常務 崎出 弘和

### 平成24年はどんな年でしたか

ホタテの小型化や成長の遅れ、秋鮭の小型化と低調のまま終わった水揚げ、さんまの小型化と水揚げの減少、イカの水揚げ不振など、いつも“いつかは！獲れる”と期待し、待たされ続けて終わってしまった一年の気がします。

### 新年にあたっての抱負

安全・安心で高品質な道産水産物の評価は、今や国内ばかりではなく、海外市場でも高く評価されています。浜と一体となって作り上げて来たこの財産を、さらに生かすためにも、“需要は世界にある”との視点をしっかり持ち、仕事に取り組んで行きたいと思えます。



常務 佐藤 忠則

あけましておめでとうございます。昨年は、一昨年3月の大震災による被害対策、原発事故の影響の諸問題に関する継続的な対応を余儀なくされた年でした。

特に、浜にとって原発問題は今後も長期に渡ってその影響が懸念される事態となり、難しい課題を抱えることとなりました。

更には年末には総選挙が実施され、政権が大きく変わる事となりましたが、新政権に対しても、浜の悩み、思いをより一層、強く伝えていかなければならないと思っていますので、本年も宜しく願い申し上げます。



常任監事 水野 秀郎

### 平成24年はどんな年でしたか

昨年は、師走の総選挙という事態に表れた通り、様々な課題が乱麻の如く入り組んだ混沌とした、総括しきれない年であり、一昨年から年明けに報道された「オリンパス損失隠し事件」で提起された「企業統治」の在り方が頭を離れず、監事の職責の重要性を考えさせられた一年でした。

### 新年にあたっての抱負

今年は「癸巳・みずのとみ」年。難題が山積みですが、地ならしを行い、新たな成長を行える年となる様、探究心と情熱を持って、「巳」の如く脱皮し、より希望に満ちた明るい年となる様、漁協系統組織の理念を念頭に監事として誠心誠意努力して行きたいと考えています。



副会長 西 英司

### 平成24年はどんな年でしたか

本道漁業は秋鮭・ホッケなど資源状況に黄色ランプが灯り、昆布を含め実効性のある資源回復対策の重要性和緊急性を痛感した年でした。

流通面では国内消費の減退のほか秋鮭等の輸出環境が一変するなど逆風が吹き、放射性物質風評被害問題も浮上、組織を挙げた流通促進対策の推進がより重要となった年でもありました。

### 新年にあたっての抱負

なによりも景気V字回復によりデフレ早期脱却を実現するなど一日も早い『日本再生』を期待します。何はともあれ全道の浜が大漁に沸き、関係する多くの皆さんに笑顔が満ち溢れる年であって欲しいと願っております。

グローバル化が一段と進む中、本道漁業は諸課題が山積しております。世界情勢をしっかりと見極め、内外に誇れる漁協・系統組織の強みを最大限活かしながら、浜の皆さんと一枚岩となって課題解決にあたる決意です。

個人的には、昨年果たせなかったマラソン大会自己ベスト更新が抱負です。



専務 小倉 孝史

### 平成24年はどんな年でしたか

新年あけましておめでとうございます。

依然として、資源の減少に歯止めがかからず、又、国内消費はデフレが進行し、輸出も中国向け秋鮭、韓国の助宗が政治問題もあり、急ブレーキがかかり、その上チリからの養殖銀鮭が多量に輸入され、水産物の流通は八方ふさがりの年でした。浜にとっても本会にとっても大変厳しい一年だったと思っています。

### 新年にあたっての抱負

今年も引き続き厳しい状況が予想されますが、こんな時こそ役員一丸となり基本に戻って業務推進し国内外に向けてきめ細やかな、そして粘り強い営業力、行動力で諸対策を推進し、円滑な流通を目指したいと思いますので、浜の皆様のご支援とご協力をお願い致します。



常務 杉本 昭二

### 平成24年はどんな年でしたか

歳を重ねるたびに、時間の流れが早くなるものだ！と聞かされてきましたが、まさに実感の一年でありました。震災から復興に向けた厳しい一年であり、北海道の水産物も不漁と魚価安に悩まされた一年でもありました。経済不況の中、消費を前提とした価格形成に対して、浜の前向きな姿勢を強く感じた一年でありました。今年こそは、豊漁に沸き、豊かな年になってほしいものと願います。

### 新年にあたっての抱負

心と身体が健康である事、そして地に足の着いた仕事ができる様にと願っています。個人の力には限界があり、サポートしてくれる人への感謝の心も忘れずに前進していきたいと思っています。

今年もよろしく願います。

# 昆布漁業に生きる・特別編 北海道昆布漁業に関する懇談会

今年6月に発行された冊子「昆布漁業に生きる～北海道発 浜の男たちの情熱～」(北海道昆布普及協議会発行)。そこに登場された昆布生産に携わる各浜のリーダー10名が一堂に会し、各浜の昆布漁業の現状や課題、今後の展望について語り合う懇談会が開催されました。本誌では懇談会の模様を2カ月に渡りお伝えしていますが、先月の「雑藻駆除の課題」に続き、今月は「乾燥機の使用状況」、「後継者問題」等をテーマに話し合います。



今年6月に発行され、全道の昆布漁業者をはじめ関係者に配布された「昆布漁業に生きる」



立浪前副組合長(厚岸漁協) 向井副組合長(日高中央漁協) 平野組合長(えりも漁協) 橋組合長(函館市漁協) 鎌田組合長(南かやべ漁協)



和泉組合長(香深漁協) 山川組合長(宗谷漁協) 志和昆布漁業部会長(歯舞漁協) 相木養殖漁業部会長(羅臼漁協) 加藤組合長(釧路市東部漁協)

## ●懇談会出席者の皆さん

南かやべ漁協 組合長	鎌田 光夫さん
函館市漁協 組合長	橋 忠克さん
えりも漁協 組合長	平野 正男さん
日高中央漁協 副組合長	向井 進さん
厚岸漁協 前副組合長	立浪 栄一さん
釧路市東部漁協 組合長	加藤 昌俊さん
羅臼漁協 養殖漁業部会長	相木 茂樹さん
歯舞漁協 昆布漁業部会長	志和 昭則さん
宗谷漁協 組合長	山川 憲治さん
香深漁協 組合長	和泉 優さん
常務	西 英司
副会長	杉本 昭一

## 機械乾燥の使い方について

**西**：本日ご参加の皆さんのうち、天日乾燥で生産されているのは、函館市漁協、えりも漁協、日高中央漁協、香深漁協の皆さんですが、日高中央漁協では、今まさに機械乾燥の導入を検討中と伺っております。いかがでしょうか。

**向井**：当組合の昆布は天日乾燥が基本ですが、既に3分の1の漁業者が乾燥機を持ち、私も持っています。7、8割天日で乾燥させた昆布を乾燥機に入れれば、天日乾燥と比べても、品質はほとんど変わらないと感じています。乾燥機を使うことで、天候に左右されずに出来る良い

面があり、手間や人件費の削減にもなります。しかし、機械に投資が出来ない方もいますので、全体でまとまって導入するのは難しい状況です。

**加藤**：釧路市東部漁協では、早くから導入を開始し、昭和58年頃にはほとんどの漁業者が乾燥機を使っています。釧路は霧が多く天候が不安定ですので、乾燥機がなければ安定した生産は出来ません。基本はもちろん天日干しですが、5分乾燥まで天日で行い、あとは乾燥機に入れば、再び沖に出て採取ができます。品質も問題ありません。

**相木**：我々も皆、乾燥機を使っています。

**西**：杉本常務、天日乾燥や機械乾燥に関して、消費地の昆布業界からの要望はありますか？

**杉本**：日高昆布や羅臼昆布については、天日乾燥をしてほしいという業界からの要望は一部ありますが、ただ皆さんがおっしゃる通りに、機械乾燥も使い方を工夫すれば問題ないと思います。

**山川**：宗谷は、約150名の昆布漁業者がいますが、ほとんど乾燥機を使っています。北に位置する宗谷は日光が弱く、例えば天気が良くても、風が無いと乾燥しないことがあります。その経験から私は昆布の乾燥には風が重要だと考え、機械乾燥を導入してから風通りの気を付けながら、天日干しに近い状態に仕上がるよう工夫しています。

最近、天気の悪いときにも生産ができるように、生の状態から乾燥機にかける方法を研究しています。

もしれません。

**杉本**：昨年は全道で1万5千トンと大減産のなか、函館管内だけが6千トンを維持しています。生産量が安定している影響は大きいかも思いますが。

**西**：橋組合長はいかがですか？

**橋**：後継者問題はあります。なんとかしなければならぬと思っています。後継者問題とは異なりますが、2、3年前に他県から来た人が「漁師になりたい」と言っただけのまま就業した事例がありました。最近別の職業に就いていた昆布漁師の子どもが親の高齢化に伴い地元に戻ってくることもあり、これらの人々には干場を作って世話をしたり、皆で教えたり、力を貸しています。

**西**：私も以前、釧路にいたときに「本当は、経営が安定すれば出稼ぎに行かず昆布漁でやっていきたい」という声を聞いたことがありました。その点はいかがでしょう。

**立浪**：経営という面では、漁船漁業に比べ、昆布漁業はある程度見込みが立ちます。うちの組合では「漁業の原点は昆布だ」を基本に、なんとか後継者も続いています。今は各家庭のお子さんの数自体が少ないですから、難しい面はあります。

**西**：少子化問題ですね。

**立浪**：そうですね。あと、我々もつと後継者づく

機械だけで乾燥を終えると昆布が白くなりますので、除湿機をかけながら一回保管し、後日、天候が良いときに干場に行き、天日に当てるという状態に仕上がります。今、その方法を皆にも勧めるところです。

**杉本**：基本はやはり天日乾燥ですが、天候がそう良い時ばかりとは限らない。歯舞さんも天候が悪い時が多いですからね。

**志和**：そうですね。我々も基本は天日乾燥ですが、ある程度乾いたら乾燥機に入れます。

**平野**：以前、私は機械乾燥には否定的でしたが、補助的に使う分にはかなり品質のいいものが作れると聞き、実は来年、自前で乾燥施設を作ることを検討しています。先日、釧路の道総研(水産試験場)に行き、話を聞きました。やはり銘柄による違いがあり、釧路や根室と同じ乾燥方法では品質に影響が出るのが分かりました。そこで、我々の場合は、天日で7分程度乾燥させ、品質の変化が出ないよう注意しながら乾燥機を使っていくことを考えています。

当組合では400人を超える昆布漁業者があり、

## 人手不足、後継者問題について

**西**：今、鎌田組合長のお話にもありました「人手不足」や「後継者問題」。次はこのテーマでお話をいただきたいと思います。南かやべではいかがですか？

**鎌田**：当組合は、平成15年に合併し、当初の組合員数が1,200名。10年目に入り、150名ほど減少しましたが、当初の見込みより減り方は緩やかです。高齢化や後継者問題が全く無いわけではありませんが、昆布の生産量も安定し、世の中が不景気なのでUターン組もいたり、たまたま今の状況においては、後継者の問題が少し緩和されているのか

りを支援しなければならぬ。子どもたちに  
対して、昆布漁業は生活が安定している漁業だとい  
うことを教えたり、昆布の採取方法を工夫すべきで  
す。また、家族総出で行う昆布漁は、特にお嫁さん  
の負担が大変ですから、お盆はゆつくり休んでもら  
うことも大切。そのよう配慮も含めて、後継者問題  
はしっかりと行わないといけないと思います。

**志和**：私は、後継者問題については大変心配して  
います。部長を引き受けたとき、昆布漁家は41  
1戸ありましたが、今は334戸に減っています。  
また、まわりには30代の独身男性もたくさんいま  
すので、昨年、地元のホテルでお見合いの席を設けよ  
うとしたほどです。この問題は、ぎよんさんにも  
先頭に立って取り組んでもらいたいと思います。最  
近は漁村や農村にあこがれる男女もいるようですし、  
テレビのお見合い番組を見ると、浜にもこういう企  
画があればいいなと思ったりもします。

**山川**：杉本常務にお聞きしたいのですが、過去10  
年間の組合員数の増減はどのような状況ですか？

**杉本**：減少しています。以前、昆布漁業者は約1  
万2千人いましたが、今は約8,700人です。

**山川**：そのような状況では、比例して昆布関連業  
者も減りますね。

**志和**：私の近所でも「後継者を残せない」、「東  
京で就職して帰ってこない」等の話を聞きます。こ  
れから10年経つと、今60代の方々も70代になりどん

年齢でどんどん組合員が減っていく、後継者がいな  
い。そうした今の時代背景を考えた場合、昆布漁業  
を安定した形で将来に残していくためには、ひとつ  
の方法として協業化という話が出るのもうなすけま  
す。しかし、実際に行うとなると、どこから着手し  
ていいのかわからないほど課題が多いのも事実です。

**杉本**：養殖施設を持つている組合では協業化が可  
能かと思いますが、いかがですか？

**鎌田**：確かに、養殖昆布は可能かもしれませんが、  
しかし、実際の問題として、例えば5,6の軒で協業化  
した場合に、ごういった組み合わせで誰が代表にな  
るのかなど、さまざま課題が発生すると思います。

**西**：なるほど。皆様のお話で今すぐ協業化に向か  
うのは難しいことがよく分かりました。

## 昆布の生産にお客様の意見を取り入れる ようになりたい

**西**：最後のテーマに移ります。現在、流通サイド  
の意見として、選葉の基準を見直すなど「顧客志向  
にすべきだ」という意見を聞くことがあります。そ  
の点について皆様の考えをお話しいただければと思  
います。

**鎌田**：昆布の生産量は2万トン割れの厳しい状況  
が続いていますので、昆布業界のために生産するの  
ではなく、生産者は自分の生活を安定させるために  
生産するのが基本です。しかし、現在、生産量が減

ると高齢化が進みますよ。

**杉本**：後継者が育たないのは経営基盤が安定しな  
いからというのも一つの要因ではないですか？

**加藤**：そうですね。確かに、昆布で食べていける  
のは、ここ5、6年のことだと思います。

**山川**：後継者を増やすには、昆布漁業を魅力ある  
ものにしなければならぬ。そのためには昆布の値  
段をいかに高くするか、と云うと昆布業者さん  
にとっては抵抗があるかもしれませんが、我々自身も  
よく考えて、昆布の水揚げ金額を増やして経営を安  
定させるのは大事ですね。

**相木**：なんとか昆布に携わって生活できるような  
体制作りをして、後継者を増やしたいですね。



少しているにも関わらず、景気が低迷して高級昆布  
が思ったより売れません。うちは、献上昆布の歴史  
がありますのでブランド昆布には特別な思いも持っ  
ているのですが、残念ながら今年は、仕立てによっ  
ては天然昆布が養殖昆布よりも安くなっています。  
そのような状況で、今後、再び生産量が2万トン  
を超えたときに、はたして消費や流通が円滑に進むの  
かが心配です。ぎよんさんで方針を検討される場  
合には、流通面の円滑化も含めて増産や販売を考え  
ていってほしいと思います。

**平野**：今のお話と同様に、私も最近、消費地での  
昆布の使い方が変わったと感じています。日高昆布  
は浜によって値段が6、7段階も違う「浜格差」が  
ありましたが、今は、消費地がそこまで細かい差を  
求めないため、3等以下については同じ価格で取引  
されています。この状況がこれ以上進まないように、  
1等・2等検の昆布については、高級にふさわしく  
ダンボールに箱詰めして出荷する等の試みも行って  
います。今は生産者も消費地の要望に応じて価格を  
維持するための取組が必要だと感じています。

**西**：今のご意見を受けて、杉本常務から、2万トン  
生産体制に向けたお話を聞いてください。

**杉本**：鎌田組合長のお話にもありましたが、今年  
の約1万8千トンの生産量が、今後2万トンを超え  
たときに、今度は供給過剰になることを皆さん一番  
心配していらっしゃると思います。

流通の実態をお話ししますと、残念ながら、今は、  
消費地が欲しいが昆布と、消費地が欲しがる流通

## 昆布漁業の協業化について

**西**：さて、先ほど平野組合長のお話にありました  
が「昆布漁業の協業化」、つまり、昆布にかかると  
業を分業化し、製品をプール出来なにかということ  
が言われています。「ほたてや秋鮭と同じことが、  
昆布でも出来るのではないか」という意見が、道庁  
をはじめ、かなりありますが、その点についてはい  
かがでしょうか？

**平野**：将来的には検討の余地もあるという意味で  
先ほど協業化の話に触れましたが、今の時点では非  
常に難しいと感じています。昆布漁は長年に渡り  
個々に操業しています。操業形態がある程度同じで  
あれば、2,3軒の協業化は可能かもしれませんが、  
何百人の組合員全体を協業化するのは難しいのが実  
態です。

**和泉**：そうですね。昆布を採る量は人によつてか  
なり違います。それを一緒に行うことには抵抗があ  
るかもしれません。

**加藤**：ほたてのような養殖漁業では、出来るかも  
しませんが、昆布の場合、自然の環境のなかで  
個々が行つので確かに難しいと思いますね。

**志和**：機械で漁獲するのなら、同じ資源量をプール  
出来るので簡単ですが、昆布は違いますからね。

**鎌田**：昆布漁業は、皆さんがおっしゃる通り、  
個々の差が大きいという問題を抱えています。高

が滞っている昆布の2種類があります。今年は生産  
量が少ないにも関わらず高級な昆布ほど流通が滞っ  
ており、そのような状況を考えると、これからは、  
やはり消費地から求められる昆布の量がある程度増  
やして供給していくことが必要だと思います。その  
点、函館は、天然昆布、2年養殖昆布、1年促成昆  
布と種類があります。それらをうまく組み合わせ、  
総体6千トンの数字を維持されている。あるいは、  
この6千トンを維持するためには機械乾燥を使うな  
どの工夫をされていると思います。

今の状態のままです。安い・高いの議論をするので  
はなく、今の状態からさらに工夫できることを行っ  
て、そのうえで安いか高いかの議論をすべきだと思  
います。

以前は年間の昆布の扱いが300億円。今は20  
0億円に減少しています。少ない生産量でも良い価  
格が取れているので、その状況に慣れてきている感  
じがありますが、もう少し価格をならし、生産量を増  
やして供給する方向に、これからは考え方を改めて  
いかななくてはならないのではないのでしょうか。最終  
的には2万5千トンあるいはそれ以上の昆布が生産  
出来て、なおかつ円滑に供給できる体制をつくるの  
が浜にとってベストだと考えています。

**西**：話は尽きないのですが、そろそろ時間となり  
ました。皆様には長時間に渡りお話しいただき、あ  
りがとうございました。懇談会にて引き続き意見交  
換をしてみたいと思います。今後ともこのよう  
な全道的な情報交換の場をつくり、対策に活かして  
いきたいと思います。

# チリ政府へ養殖銀鮭の輸出抑制を要望 「EPA魚及び魚製品作業部会」が3年振りに開催

昨年から今年にかけて、チリ産養殖銀鮭が大量に日本へ輸入され、国内の鮭鮭市況は大きな影響を受けました。その影響に歯止めをかけるため、日本・チリEPA(経済連携協定)に基づく政府間会合である「第3回 魚及び魚製品に関する作業部会」に、ぎょれんと宮城県漁協、全漁連が同行し、チリ側に対し養殖銀鮭の輸出を抑制するよう改善を求めました。

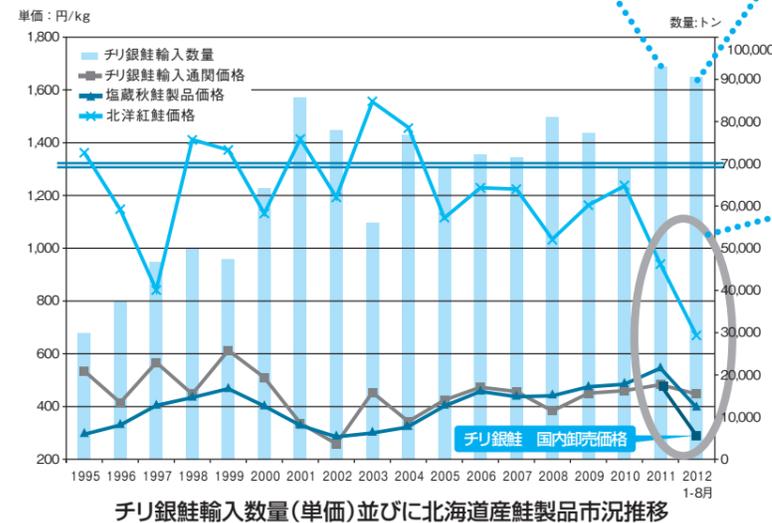


11月8日(木)、チリのプエルトモン市で行われた第3回EPA作業部会に出席するぎょれん西副会長(右端)。両国で起きた震災の影響により、3年ぶりの開催。

## 輸出量を年間7万トン程度に抑制するよう、チリ側へ求めました。

日本へ輸出されるチリ産養殖銀鮭は、2011年に東日本大震災で東北の養殖銀鮭が減少したことから、前年の7万トンから一挙に9万トンへと増加しました。

今年に入ってもその勢いは衰えず、8月時点で9万トンを超え、年間では過去最高量の11万トンに達する見込みです。



○春鮭鮭や塩蔵秋鮭の価格が下落する等、大きな影響がありました。

○チリ産養殖銀鮭の日本国内での卸売価格も下落。このままでは、チリ側の生産者の経営悪化も懸念されます。

つまり、日本・チリどちらにとっても好ましい状況ではないことをチリ側に知ってもらうことが必要です。

## 今後も定期的な作業部会の開催を通じて、両国の連絡を密にすることが確認されました。

- 水産庁 柄澤漁政部長(団長)・森下参事官、在チリ日本大使館 北村一等書記官  
水産物の国内需要も減少しているなか、チリ産養殖銀鮭の対日輸出急増は市場を混乱させている。日本・チリの業界が共栄共存していくためには、輸出急増は好ましくないことを説明。
- 道ぎょれん 西副会長他2名、宮城県漁協 菊池経営管理委員会委員長他3名、全漁連 長屋常務  
チリ産養殖銀鮭の大量搬入による鮭鮭価格の低下が、道・県内の鮭鮭漁業・養殖業に及ぼす悪影響を資料等で詳細に説明。生産調整や日本以外への輸出などを行い、日本への輸出量を年間7万トン程度に抑制するよう要望。
- チリ外務省 Sepulveda 動植物検疫部長(団長)、Torres アジア太平洋課長、チリ漁業庁、チリ輸出促進局、サーモンチリ協会  
日本の鮭鮭市場は重要。今回の日本側の説明で、日本の鮭鮭市場と漁業の状況について深い理解を得ることができた。この内容はチリ国内の各養殖業者に十分に説明したい。今後も、EPA作業部会の定期的な開催により、日本・チリ間の連絡を密にしたい。

## 浜の家族物語



【木浪さんご一家】木浪新悦さん(39歳) 由美子さん(39歳) 詩織さん(13歳) 由希ちゃん(8歳) 隆花ちゃん(0歳3か月) ※新悦さんの母 節子さんと一緒に

### 父と共に行ってきた漁を 続けていくことが第一

「浜の家族物語」では、「なみまるくん」の表紙に登場いただいたご家族を紹介します。今回は、枝幸漁協の木浪さんご一家です。

木浪漁業部では、流水の下に刺し網を仕掛けて春に獲る越冬たらば漁を皮切りに、春と秋のきれいな刺し網漁、6月からたこ箱漁、共同で鱒小定置網漁、鮭定置網漁、底建網漁と様々な漁をしています。中でも刺し網漁が好きだという新悦さんは「日によって変わる潮の流れを見て場所を決め、魚を追うのが楽しい」と魅力を教えてくれました。子ども頃から父の背中を見て育ち、中学生の時「家業を継ぐのが俺の使命だ」と思ったという新悦さん。高校生の時は、登校前と放課後に小女子干しやかれの網はずしを手伝い、休みの日には沖にも行きました。そして漁師となっ



て19年間、父と二人三脚で漁をしてきました。2年前に父が亡くなり、それまで二人でしていた仕事を一人で切り盛りするようになった新悦さん。「今までやってきた漁業をいかに続けていけるかが大切」と話します。規模を小さくしても、父と一緒にしていた漁をきちんと維持していくことが、今の一番の目標です。

### 仕事仲間や友人、家族との「絆」を実感

地元枝幸町出身の由美子さんは、高校生の時にきれいな網はずしのアルバイトをしたことがあるそうです。たこ箱の積み込みやいかの箱詰め、鮭の選別など多岐に渡る陸仕事は結婚してから初めて経験しました。由美子さんを「なくてはな

らない存在」だと言う新悦さん、「仕事も家庭のこともしっかりとやってくれるから仕事に集中できる」といつも感謝しています。

面倒見がよくて優しい長女の詩織さんは中学1年生、バレーボール部の活動に熱中しています。活発な小学2年生の次女由希ちゃんは、週2回一輪車のスポーツ少年団で一輪車演舞の練習を頑張っています。2人とも学校が休みの日にはいかに箱詰めなどを積極的に手伝います。そして、9月7日に生まれた三女隆花ちゃんも加わった木浪家では、いつも笑顔が絶えません。

子ども達には仲間や友達を大切にしてほしい」と話す新悦さん。一人で仕事をやるようになって、周りで支えてくれる仲間、相談に乗ってくれる友人、応援してくれる家族との「絆」を改めて実感しました。周囲の人たちに支えられていることに感謝しながら、今日も新悦さんは第十幸進丸で漁に出ます。

# 福島第一原発事故による風評被害の損害賠償請求に対する東京電力の説明会を開催



出席者を代表し、挨拶するぎょれん櫻庭会長。



説明を行った東京電力 橘田部長(中央)。

福島第一原発事故の発生による国内外の風評被害で魚価が下落した鮮助宗だら・鮮小女子について、地区組合長会議の協議結果を受け、9月18日(火)、ぎょれんが窓口となり東京電力に対して損害賠償請求を行いました。早期の回答を要請し、その後、ぎょれん佐藤常務を筆頭に2度の協議が行われましたが、東京電力からの明確な結論が示されないため、12月12日(水)、札幌市第2水産ビル会議室において、全道の関係漁協の代表者、ぎょれん、系統団体が出席し、東京電力に説明を求める「福島原発事故損害賠償請求に係る東京電力の説明会」が開催されました。

開催にあたり、ぎょれん櫻庭会長は「全道漁協組合長会議では、事故の早期収束・放射能汚染水の流出防止をはじめとした『安全強化対策』、『風評被害の完全防止対策』を決議し、東京電力に対し要請を行った。風評被害で著しく損害を被った助宗だらと小女子に関しては損害賠償請求も行ったが、北海道は風評被害の対象地域に指定されていないこともあり、全く協議が進展していない。本日は盛漁期にも関わらず全道から多くの漁業者が出席している。損害賠償請求に対する明確な回答をいただきたい。」と述べました。

## 東京電力の「助宗・小女子の風評被害は、賠償すべき『相当の因果関係が無い』』という説明に対し、見直しを迫る厳しい意見が相次ぐ

東京電力 福島原子力補償相談室の橘田部長は、事故発生による放射性物質の放出に関してはお詫びをする一方で、「今回の損害賠償請求に関しては、『相当の因果関係』が無く、現時点での賠償は難しい。」という見解を示しました。その理由として「東京電力の損害賠償は文部科学省に設置されている原子力損害賠償審査会の中間指針に基づいており、この指針では、①北海道は風評被害の対象地域として指定されていない、②対象地域以外でも『相当の因果関係』が認められれば賠償の対象となるが、北海道では暫定基準値を超える放射性物質が検出されておらず、原発から地理的にも遠い。また、助宗は韓国での禁輸措置が取られていない。」ことなどを挙げました。

汚染水の放出は認めながらも損害賠償はしないという東京電力の説明に対し、出席者からは、「風評被害に地理的な遠さは関係ない。まして、具体的な禁輸措置等があれば、それは風評被害ではなく実害である。」「汚染水は海に放出され、風評被害は魚価下落として目に見える形で起こっているにも関わらず、『相当の因果関係は無い』という東京電力の考え方そのものがおかしい。不誠実な対応である。」「賠償をすればよいということではない。漁業者は今後もずっと放射能の危険性と付き合っていかなければならない。」と東京電力の対応を批判する厳しい意見が相次いで出されました。橘田部長は、「今日伺った意見は報告し、再検討を行う。早期に回答を出すよう努力したい。」と述べるに留まったのに対し、ぎょれん佐藤常務は「明確な回答を示していただきたい。」と東京電力の誠意ある早期対応を促し、説明会は終了となりました。ぎょれんでは今後も粘り強く東京電力と交渉を続けていきます。



# プレイタイム

## クロスワードパズル

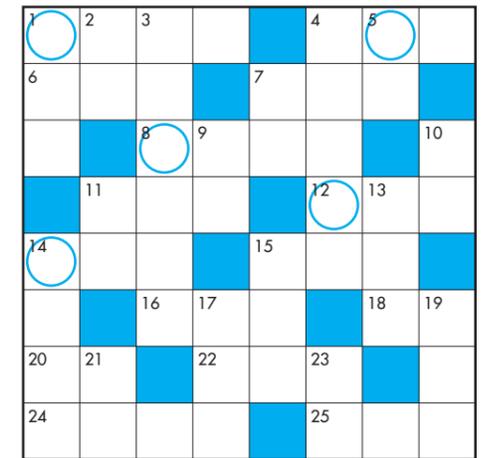
新年あけましておめでとうございます。新年を健やかに過ごしましょうか。さて、次のクロスワードを完成させ、○印に当たる言葉をうまく並べてください。お正月に新年のお祝いとして、大人から子どもに贈ります。皆さんも子どもの頃は、もらえるのが楽しみでしたよね!?

### タテのカギ

- ① 自動車の保管場所
- ② 手術用ナイフ
- ③ 目の下にある下まぶたに添ったふくらみ
- ④ アメリカの首都
- ⑤ カップ麺はコレを入れる
- ⑦ 未来⇄
- ⑨ 驚くと思わず吞んでしまうのは?
- ⑩ 漢字だと木を3本書きます
- ⑪ ○○段、○○岸、○○柱
- ⑬ 焚き火で使う葉っぱは
- ⑭ まつげを濃く長く見せる化粧品
- ⑮ 鮭の卵がたっぷり「○○○丼」
- ⑰ 動物の雄と雌のひと組
- ⑲ 境界線=ボーダー○○○
- ⑳ サザエさんの息子の名前
- ㉓ 習字は硯でコレを磨ってから始めます

### ヨコのカギ

- ① 藁で作った正月飾り
- ④ 高さの違う音が同時に響いてできる音
- ⑥ 年末から正月にかけての休暇は、冬○○○
- ⑦ 「北島三郎」は演歌○○○
- ⑧ ふろふき、ぶり、おろし、この野菜は?
- ⑪ 日本の伝統芸能。役者に中村屋や成田屋などの屋号があります
- ⑫ にわか雨=○○○雨
- ⑭ カラオケの時に手に持つ拡声装置
- ⑮ テレビ画面サイズの単位
- ⑯ アメリカ発祥のバンドスタイルで演奏する音楽
- ⑰ トゲがある花と言えば?
- ⑳ ○○幅、路○○、○○車
- ㉒ 窓や瓶、蛍光灯に使われているワレモノ
- ㉔ 子守唄を英語でいうと
- ㉕ こたつに欠かせない柑橘類



○印に当たる言葉をうまく並べてください。

解答  となります。

くわしい応募方法は、17ページをご覧ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

カ	セ	エ	ク	ホ	エ
サ	イ	バ	ン	タ	ツ
キ	ン	ト	ウ	ン	ロ
シ	ン	ソ	ツ	ナ	イ
キ	ウ	ラ	ベ	ン	
ス	コ	ト	ク	ウ	
キ	ノ	ウ	メ	イ	バ
パ	ー	カ	ン	ガ	ル

**12月号の解答と当選者**  
プレゼント  
(函館市) 鎌田 律子さん  
(小樽市) 宮古 知行さん  
(室蘭市) 橋根 啓子さん  
(北見市) 黒坂 郁美さん  
(大空町) 柴田 真弓さん

## 間違いさがし 間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。(印刷のズレや汚れは関係ありません。)



※答えは17ページにあります。

# 浜のほっとニュース

小樽	12月10日で小樽のしゃこ漁が終漁しました。12月は時化で出漁回数が少なく、品薄で、浜値はk@4000を超える価格で推移しました。ひらめは中旬以降大量水揚げが続き、昨年同様豊漁の反面、値崩れ気味です。多くの浜では1月から始まるにしん漁の準備に追われています。全般的に不振だった昨年に代わり2013年が豊漁で穏やかであることを祈ります。
桧山	11月20日から始まった延縄釣り助宗漁ですが、昨年よりも資源状態が良く、水揚げは現時点で1,524トン(前年736トン)、金額にして2億2,400万円(前年1億円)となっています。順調な漁模様に浜も大変賑わっています。今後、1月中旬までの漁に向けて、安全と大漁を願うばかりです。
函館	10月から始まった助宗刺網漁は11月中旬から時化が多く、思うように出漁できなかったためか、12月17日現在で累計約11,000トン(昨年比85%)の水揚げとなっています。12月上旬から水揚げが増加しつつあり(11月中旬300トン/日→12月上旬800トン/日程度)、この調子で昨年の水揚げを上回り、浜が活気づくように期待しています。
室蘭	管内では、11月末から12月初旬にかけての連続した大きな低気圧により、助宗刺網漁、ほたて漁が1週間近く休漁に見舞われました。助宗刺網漁も10月以降は時化の日が多く、昨対70%の水揚げになっています。一方で、浜値は昨年度より高値となっており、今後の好漁に期待しています。
日高	7月より操業していたいか釣り漁が12月12日をもって終漁しました。今年は、例年にはない漁期の延長もあり、浜は12月も多くのいか釣船で活気づきました。11月下旬よりえりも漁協で行われたはたはた漁は約2週間に渡って水揚げされ、昨年対比約8割ほどの水揚げとなりました。これから毛がにとばがれいが最盛期に入ります。漁の安全と大漁を願っています。
釧路	当管内では冬漁が本格化しています。先月から引き続き時化が多く、たこ漁などは出漁回数も少なく低調な推移となっています。その他にもばがれいやほっき、真だらなど、冬の主役たちが続々と顔を見せ始めており、今後の水揚げに期待しています。厳しい寒さが続く管内ですが、引き続き安全操業を願っています。
根室	天然ほたて貝の水揚げが始まりました。標津漁協は11月27日、野付・別海漁協は12月1日からの操業開始です。水揚げ数量は、羅臼漁協の潜水物を含め、全体で日産250-200トンで、生育はまずまずです。雪の日が増え、寒さも厳しくなってきますが、時化が少なく、安全操業になることを願っています。
北見	新年、明けましておめでとうございます。ほたて漁や底建網で豊漁だったかれいも終盤を迎え、オホーツク海はすっかり冬支度に入りました。一方、サロマ湖内のかき漁は旬を迎え順調な水揚げとなっています。これからの季節は鍋料理を中心として需要が高まる中、水揚げ量・浜値ともに昨年を上回ることを期待しています。本年も安全操業と大漁を心より祈願しています。
稚内	12月も半ばになり、3月の漁場造成から約10カ月間水揚げを続けてきた管内ほたて漁が終漁しました。利尻・礼文地区では先月からたら・かれい刺網漁が始まりましたが、ここ最近では時化が多く水揚げが出来ない日々が続いています。荒れやすい冬の海ではありますが、新しい年へ向けて安全操業で大漁となることを願っています。
留萌	11月から始まった三陸向けほたて半成貝の出荷も後半戦に突入し、各浜では出荷作業に追われています。また沿岸では、冬に漁獲される代表的な魚「真だら」や「かじか」の水揚げが増えています。年内の操業も残り少なくなってきましたが、各浜が安全操業で、新鮮で美味しい魚がたくさん獲れる事を期待しています。

# なみまる インフォメーション

## 北海道昆布専門委員会の答申をもとに道議会・道総研へ要請活動を実施

### 昆布増産に向けて雑草駆除の助成、研究の充実などを要望

11月26日(月)、ぎょれんは、道議会及び地方独立行政法人 北海道立総合研究機構(以下、道総研)に対し、「北海道の昆布の安定生産に必要な施策実現に係る要望書」を提出し、昨年大減産となった昆布の生産回復に向けて関係機関の協力を求めました。要請の内容は、9月の北海道昆布専門委員会答申結果をもとに「雑草駆除に対する助成」、「昆布研究のための試験研究機関体制と研究内容の充実」等を求めるもので、道議会・水産林務常任委員会 日下委員長は「本道の基幹産業である昆布漁業は重要。現在も地域対策会議等を開催しているが、一層の努力を約束したい。」と述べました。道総研の丹保理事長は、「今年は人員も増やし、研究の重点項目にも昆布研究が入っている。要請内容を受けとめ、研究を充実させていきたい。」と述べました。



要望書を手渡しぎょれん西副会長(右)と道総研丹保理事長(左)。

## 札幌市児童福祉関連施設へ水産物を贈呈

### 子どもたちへのプレゼントも20年目の節目を迎える

12月14日(金)に札幌市の子ども未来局において、市内の児童福祉関連施設15箇所への水産物の寄贈が行われ、ぎょれんの崎出常務が札幌市子ども未来局の大谷内局長に目録を手渡しました。いくら醤油漬や秋鮭切り身、ほたてフライ、昆布巻など100万円相当の水産物が12月中旬に子ども達の元へと届けられます。子どもたちに北海道の水産物を好きになってもらおうと、平成5年から北海道秋鮭普及協議会、北海道ほたて漁業振興協会、北海道昆布普及協議会が共同で行ってきたこの取り組みも今年で20年目の節目を迎え、これからもしっかりと継続していく予定です。



目録を手渡したぎょれん崎出常務(左)と札幌市子ども未来局大谷内局長(右)。

## パルシステム生協連と日高地区女性部が料理教室を開催

### 日高産の昆布やたこを使った料理で交流を図る

11月21日(水)、静岡県御殿場市で、パルシステム生活協同組合連合会静岡と道女性連日高地区女性部、ぎょれんの共催による料理教室が開催されました。首都圏の消費者と生産者が交流し道産水産物の消費拡大を図るために企画された今回の料理教室。日高産の昆布やたこなどを使い、「焼き昆布とカボチャの春巻き」や「タコ飯」など浜のお母さんのアイデアあふれる料理計5品を作りました。講師を務めた住岡地区会長、星野副会長、川崎監事は、浜で働くゴムガッパを身にまとい、10メートルもある日高昆布を小脇に抱え登場するパフォーマンスを披露。また、昆布採取方法や栄養素についても分かりやすく解説するなど、楽しい話とおいしい料理で、昆布ファンの獲得に貢献していました。



長い日高昆布を手に登場した日高地区女性部の皆さん。普段目にしない長さの昆布に参加者はびっくり。

# 全国の幼稚園・小学校で 昆布食育教室を開催中!



北海道昆布キャラクター  
こんぶらこ ©2008HH

## クローズ アップ 宣伝事業

ぎょれんでは、将来に渡る需要拡大を目指し、子どもの頃から水産物に親しんでもらうための食育活動に取り組んでいます。  
その一環として、北海道こんぶ消費拡大協議会と連携し、全国24カ所の幼稚園・小学校で、昆布食育教室を開催しています。

## 幼稚園

- 時期：9月～1月
- 地域：札幌・北陸・関東・関西・九州
- 参加人数：約2,500名
- 内容：①ミニ講座 ②昆布すまし汁試食 ③昆布と冊子の配布



園児は初めて触れる昆布に興味した様子でした。



模型の漁具を使いながら、昆布を引き上げます。

幼稚園の食育教室では、園児向けのミニ講座を実施。昆布に直接触れたり、模型を使った漁の疑似体験等、楽しみながら昆布について学んでもらいました。  
講座終了後には、昆布のおいしさを実感してもらうため昆布のだしがきいたすまし汁の試食を行いました。「おいしかった」「もっと飲みたい」といった声がたくさん聞こえ、昆布を身近に感じてもらえる教室となりました。

## 小学校

- 時期：11月～12月
- 地域：札幌・関東・関西
- 参加人数：約5,000名
- 内容：①昆布の授業 ②保護者向け食育講座 ③給食での昆布料理提供 ④昆布と冊子の配布



昆布の長さが実感できるように提示。初めて聞く昆布の話に、子どもたちも興味津々。



保護者への食育講座も開催。皆さん熱心に聞いていました。

小学校では、「総合的な学習の時間」を活用し、学校の授業の一環として昆布の食育講座を実施。動画やパネル等を用いて、昆布の生態を詳しく説明しました。また家庭での昆布消費を促すため、今年から保護者向けの食育講座も併せて開催しました。  
続く給食の時間には、各校の栄養士さんが腕によりをかけた昆布料理が提供され、生徒と保護者の皆さんに昆布のうまみを感じてもらいました。



**来**年の2月に7年ぶりにわが女性部の研修旅行を予定しています。気心の知れた浜の仲間たちと大いに楽しんでできます。復興支援や研修遊びも兼ねた3泊4日の欲張りメニユーの東京・福島ハードスケジュールの旅です。今後の女性部活動に生かすことの出る旅行になると確信しています。大切な仲間達と存分に親睦を深め、絆を育んでください。女性部万歳!女性部に心より感謝! ENJOY女性部!!  
(羽幌町 木村 日登美さん)

**浜**の家族物語を楽しみに見ております。笑顔が素敵で読んで心温まります。  
(豊頃町 工藤 栄子さん)

**お**父さん、お母さん、1年間お仕事ご苦労様でした。今年は、昆布も定置も良くなかったけど、来年は大漁するといいいね。  
(釧路町 佐藤 幸奈さん)

**今**年もあと少し。時化が多く、不安定な年でした。来年は皆様に良い年でありますように。  
(小樽市 宮古 登美子さん)

**今**年は厳しい残雪のため、10月になっても海水温が下がらず、樺山管内の秋鮭漁は不振を極めました。秋鮭ばかりではなく、他の魚種も例年を下回っています。気候に左右される1次産業。来年は異常気象になりませんように。  
(せたな町 鶴入 泰宏さん)

**大**きい時化が多く、出漁日が少ないです。地球温暖化でしょうかね。  
(室蘭市 橋根 啓子さん)

**編集後記** 担当者から  
あけましておめでとございませう。この原稿を書いているときは大掃除の真っ最中。一気に言うとしたら、今日は台所、明日は押入れと日をつけて行っています。事務所にある書類も少しずつ片付けています。取材に使った資料や写真メモなどを振り返っていたら、今年も無事、頑張れたなあ...とうれしくなります。新しい年を迎えるのは良いものですね。皆様にとって本年も良い年でありませうように!! (工藤 栄子)

新年明けましておめでとございませう。今年からわが家のおせち料理に、私の手作り昆布巻が入ります。昨年ぎょれんのホームページに公開した動画コンテンツ「おうちde北海道のおさかな」お魚料理の基本とコツで学んだ自信作です。先日、動画の通りに試作したところ、普段料理をしない私でもおいしく作れました。試食した家族の評判も上々で、妻もちょっと「ふる昆布(喜ぶ)」でした。  
(櫻田)

(編集部より) 12月号4ページの山川組合長のご発言のなかで7月20日とありますが、これは、7月8日の間違いでした。訂正いたします。



タイトル：漁民と職員の笑顔 (島牧村 泉谷 泰三さん) 平成24年6月20日 厚瀬漁港にて



**皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています!**  
次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。  
①浜だよりへの投稿(お便り、写真、イラスト等)や、広報なみまるくん1月号への感想・ご意見など  
②12ページのクロスワードパズルの答え  
③住所・氏名・年齢・電話番号  
※「浜だより」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載(氏名、年齢、市町村名)にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

(宛先) 1月20日までにお願いします。  
(郵便) 〒060-0003  
札幌市中央区北3条西7丁目1番地  
北海道ぎょれん 総務企画部 広報担当  
(FAX) 011(242)3543  
(電子メール) info@gyoren.or.jp

**家族の幸せと一緒に背負って オレンジベスト**  
(社) 北海道漁船海難防止・水難救済センター

なるほど!簡単!



## 浜料理

# ホタテクリームチャウダー



### レシピ

#### 【材料】(4人分)

- ・ほたて…中6個
- ・キャベツ…葉1枚半
- ・じゃがいも…中1個
- ・ミックスベジタブル…120g
- ・水…300cc
- ・牛乳…400cc
- ・生クリーム…200cc
- ・コンソメ…2~3個
- ・塩、コショウ…適量
- ・小麦粉…少々
- ・サラダ油…少々

#### 【作り方】

- ① ほたてを食べやすい大きさに切り、塩、コショウを振って20分ほどおく。20分経ったら小麦粉をまぶす。
- ② キャベツは1センチほどの千切りに、じゃがいもは小さめの乱切りにする。
- ③ 鍋にサラダ油を入れ、①のほたてを焼き、焼き目が付いたら皿にとっておく。その鍋にサラダ油を少々入れ、キャベツ、じゃがいも、ミックスベジタブルを炒める。
- ④ ③に水を入れ、8分ほど煮る。野菜に火が通ったら、ほたてを鍋に戻し、牛乳、生クリーム、コンソメを入れ、混ぜながら3~5分ほど煮込んで完成。

寒い季節にぴったりな体が温まるスープ  
今回はほたてを使った「ホタテクリームチャウダー」をご紹介します。いよ冬本番、この季節には、短時間で作れて、体の芯から温まるスープが大活躍します。ほたては、食べごたえがあるだけでなく、旨みとコクが加わり、まろやかな味わいが楽しめますよ。



ひやま漁協  
能代 恵子さん



北の魚情報がぎゅっしり!北海道ぎょれんウェブサイト  
[www.gyoren.or.jp](http://www.gyoren.or.jp)



贈り物で未来につなぐ北の森  
本書の本文用紙は原料の一部に道産産物を使用しております。